

ほんのじるべ

# 書様

2025.  
5月号





## ジュンク堂書店

## 池袋本店

ジュンク堂書店池袋本店がある豊島区は、戦前はアトリエ村があったり、今は区全体でアニメ、コミック文化の推進を行っていたり、多種多様な文化が根付いています。その一方、大学のキャンパスや中高一貫校、予備校などの教育機関が数多く存在しています。

そのせいか、元々専門書の品揃えには力を入れてきましたが、カルチャーフェスティバルや研究書を探しに来られる方が特に多くご来店されます。そんな池袋本店を象徴する棚として、通称「ツインタワー」と呼ばれる少し変わった形の棚を一階に作りました。棚を互い違いに積みあげた棚が二本あり、向かって右側をアカ

タワーと呼んでいます。それぞれ半円状になっていて、向かい合わせると円になるようにできています。

このタワーは、毎日入荷していく少し専門性が高い新刊書籍を主に並べています。箱の中に二~三點の書籍を並べ、隣同士にはなるべく関連したテーマの本を並べています。そういう箱が上下斜めと積みあがり、それぞれの本、箱がゆるやかにつながり、一つの塔となっています。

その時々の新刊が別の新刊と隣り合うことで、今の世の中が立ち上がり見て見える——本 자체が持つ力を感じることができる棚となっています。

# 「書標」歳時記

5月

かすかに甘い香りがした。自然界特有の、  
むつとする青臭さと、何かを燃すきな臭さが  
足元や背後から漂つてくるのに、やはり  
その中に見透すことのできない甘くかぐわ  
しい香りが混じっていた。

風が吹いていた。

さわさわと、柔らかく涼しげな音が身体を  
包む。それが、木々の梢で葉がそれ合へ音だ  
とうつ」とはまだ知らなかつた。

恩田陸『蜜蜂と遠雷』(幻冬舎)より



日本全国丸善ジユンク堂書店探訪④

「書標」歳時記〈5月〉

著書を語る⑥⑥ 『眼述記』にいたるまで

高倉 美恵

2

書標・書評 『天使も踏むを

4

特集 本を焼く

この人を見よ

10

今月のおすすめ

社会科学 14

コンピュータ

自然科學 17

医学

人文科学 19

文学

文庫・新書 21

芸術

実用書 23

地図・旅行書

インフォメーション

本屋うりばなし

本を売る

※表示価格はすべて税込み価格です。

26

6

2

1

もくじ

## 『眼述記』にいたるまで



高倉 美恵



小学五年生のときには、自分が「フツーのイイ子」ではないことに気づき愕然とした。あとがきに書いたのはその通りだが、もう少し詳しく説明する。

小学校の六年間、通知表に「明るくて活潑ですが、少し落ち着きがありません」と書かれ続けた子供だった。今から考えると、六年間書かれ続けるほどの、落ち着きのなさというものを問題視すべきかもしれないが、それは置く。本人は、自分のことを「ちょっと忘れ物が多いけど、元気でイイ子」だと思っていたのだ。それが小学五年生のある日突然気づいた。

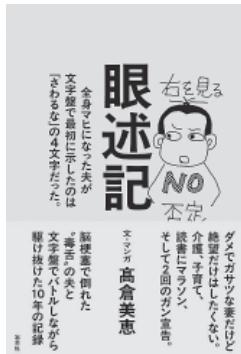
あれ? 自分は優しいイイ子と思われたいために、そのように見えるふるまいをしてるだけで、本当は優しいイイ子じゃないぞ!?

そして、家庭の不和などいろいろありながらも中学二年で筒井康隆の『家族八景』(新潮文庫)に出会って、救われるのである。ただ、世界は広く腹黒も世の中にはゴマンといふことがわかつて救われたが、それでワタシの腹黒のニセモノが治るというワケではない。で、どうするか。ワタシは腹黒のニセモノだけど、そうでないホンモノのイイ人がいることも知っている。自分の腹の中は変えられないけど、せめてふるまいだけでも、その人たちの真似をすることにしよう。という方向で行くことに決めたのだった。本が好きでいっぱい読んでいたから、悪い人もイイ人もよりどりみどりで、お

それまで自分はイイ子(少々雑だが)と思っていたから衝

手本は選び放題。そして高校三年生で、運命の本『ぼくは本屋のおやじさん』（早川義夫著／現・ちくま文庫）に出会う。高校を過ごし、なんとか社会に適応して生きてこれただけでも僥倖。これまた本の影響で本屋さんになつて働けてるなんモノのイイ人を真似して人生を生きていこうと決めて中学を始める。と、またぞろ不安が首をもたげてきた。ニセモノが子に伝染してしまう！夫がなんでワタシと結婚しようと思つたのかは知らないが、夫にワタシのニセモノはバレてるっぽかったから気は楽だった。しかし子は、違う。子にバレてもいいが、子が生きづらくなるのはイヤだった。できれば天真爛漫に生きてほしい。でも母親はこんなんだ。どうする。そんなことを思いつつも子は育つ。下の子が四歳のときだ。近所の公園で、顔見知りの三歳男子が荒ぶり、滑り台の順番を守らなかつたり遊具を占領したりしていた。親は近くにいない。ワタシは自分の子が嫌がらせされないかばかりを気にして、それとなくその子から遠ざけて遊ばせた。すると一緒に来いた夫が、ずかずかとその子に近寄り、ぐわっと抱き上げて、「あかんぞ」と笑って言いながら、ひとしきりその子とダイナミックに遊び始めたのだ。ワタシは、それを見てちょっと恥ずかしくなつた。荒ぶつてると言つて三歳だ、ほかにもやりようがあつただろう。

それを鎮めた夫は、近くに戻ってきて「あの子、下に赤ちゃんでたたばつかりやろ。ちょっと寂しいんやな」と、ぱそつと言った。その夫が、二〇一四年十一月に、脳梗塞の治療中に脳出血を起こし、全身麻痺になった。子らは高校一年と中学一年、だいぶ育ち上がっているが、まだまだ難しい年頃だ。夫の容体がまだはつきりしなかつたとき、ワタシを襲つたのは、もしかするとこの子らは今後、腹黒でニセモノのワタシだけの影響下で育つことになるのかもしれんという恐怖だった。死線をさまよっている夫には申し訳なかつたが。だから、夫の体は動かないが脳みそは元気、ということがわかつたとき、心の中で快哉を叫んだ。ワタシから影響を受けないつてことはないだろうが、頑張つてイイ人でいるように努力はしたし、ちゃんとイイ人の夫の脳が帰つてくるんだからもう大丈夫。だつたかどうかは、ぜひ本書を読んで見極めてください。



『眼述記』

忘羊社・1,925円

資料を参照しながら、長い時間をかけて練り上げられたものだと感じられる。

『天使も踏むを畏れるところ 上・下』  
松家仁之著 新潮社・各二九七〇円  
著者のデビュー作『火山のふもとで』では、国立現代図書館の設計コンペに向

け、浅間山のふもとの山荘で共同生活をおくる村井設計事務所の人々と、設計事務所に入所した若い建築家のひそやかな恋が描かれた。『天使も踏むを畏れるところ』は『火山のふもとで』(新潮文庫・九三五円)に連なる物語である。

敗戦後、天皇は「象徴天皇」となった。

焼け落ちた明治宮殿に代わる「新宮殿」を、あたらしい時代を象徴するものとす

るべく、造営に向けて人びとが動き始める。『火山のふもとで』の「先生」と村井俊輔が、新宮殿のチーフアーキテクトに就任する。日本建築の伝統を踏まえたがらも、見る人に畏怖の念を抱かせるのではなく、開かれた宮殿へ……しかし、国家、官僚、個人、それぞれの思いが交差する造営事業は一筋縄ではない。史実に創作を織り交ぜながら緩られる、新宮殿造営をめぐるこの物語は、膨大な

建築は、あたらしい顔をしているというより、どこかで見たことがあるものが少しずつ集積して、見事にそこに落ち着いている——そういうものだろう」

建築は、ひとりの人がその生を終えたあとも、その場所に残り続ける。人間ひとりひとりの嘗みはちっぽけなものだが、確かに、その人がそこにいた証が、ここにある。

美しく静謐な物語を手に取る喜びを噛みしめながらページをめくつた。(齊)

### 『ものごころ』

小山田浩子著 文藝春秋・二二〇〇円

自分が成長していたころに戻つてみたいな、と思うことがあります。どのようにして大きくなつていったのだろう。毎日何を考えていたのだろう。

この小説で描かれる子どもたちは、まさに思春期真っ只中。従兄の結婚相手に勉強を教わる子ども。彼は、なぜかヤゴとメダカの成長を見ながら勉強をすすめます。「猫は半分は空氣でできている」と

主張するおじさんと、怪我をした犬を運ぶ少年たち。彼らは、大変な事態に陥りながらも、成長していくお互いの身体を意識しています。先生から「誰かみたいに(絵を)描くのはよくない」と言われ、不思議に思う子ども。彼はずつと、あじさいの花を元気にする方法を考えている。

自分の思春期とは明らかに違うのですが、めっちゃ似ている、とも思つてしまします。ずっと何かしらをどうしたら良いか考えていた。誰から言われる言葉は絶対で、だけど、どこかに抜け道があるんじゃないかと考えていた。夜が更けていくごとに気温が上がっていくような気がしていた。

過去に学校の先生から、「大人など存在しない、僕はそう思つていて、子どものころの意識は、ずっと続いている、死ぬまで子どもなんだから。みんなそうです。だからそれを死ぬまで意識して生きてくれ」と言われ、恐怖におののいたことがあります。でも小山田さんの小説を読むとたしかにそうかも、と思つてしまいます。この子どもたちは他人ではない、確かに、私と地続きなんだ。

身体が少しずつ動かなくなり目が少し

ずつ見えなくなつたとき、地続きの小さい子どもは私の中にどのくらい残つているのでしよう。そう考へてしまつ短篇集でした。

(松)

### 『国立大学教授のお仕事』

木村 幹著

ちくま新書・九九〇円

著者は比較政治学、朝鮮半島地域研究を専門とし、現在神戸大学大学院国際協力研究科の教授を務めている。野球の好きな人は、オリックス・パワーローズのファンとしての文章を読んだことがあるかも知れない。

国立大学の教授の仕事とはどのようなものなのだろうか。イメージとしての大学教授は、授業をして、ゼミ生の指導をして、自分の研究をして論文を書いて……という感じかと思うのだが、「はじめて」の章の大学の研究科長のある一週間をざざつと読んだだけでも、大学の研究科長という管理職はめちゃくちやにやらなければならぬことがたくさんあって、なんて大変なんだろうと僭越ながら同情してしまう。

しかも一般の会社なら基本的に管理職の仕事だけこなせばいいところ、大学教授は(イメージどおりの)授業や生徒の

指導、そして自身の研究もしなければならない。体がいくらあっても足りないのではないだろうか。一人の管理職にこのような負担がかかっているのは、独立行政法人化による研究費や人員の削減、短期で結果を出さなければならない研究へのプレッシャーなど、以前とは大きく変わった国立大学の置かれた環境にある。

本音で書かれた本書を読めば、国立大学の現状を通して、日本の大学教育の問題が見えてくる。

(志)

### 『責任と物語』

戸谷洋志著

春秋社・二三二〇〇円

「星の王子様は、何故星に戻つていったのか?」

誰もが知る寓話を入口に、戸谷洋志は、「責任を引き受ける」とは、どういうことか?を問う。誰もが日常で遭遇し得ることの問いは、答えを探す者を哲学的思索の迷宮へと誘い込む。自由意志、欲求、時間、主体……、迷宮を奥へ進むとともに哲学的難問が立ちはだかる。

本書で我々が戸谷とともにたどり着くのは、「私たちが、自分の人生の主人公であることによつて、責任を引き受けること」である。

「可能になる」という結論である。各自の人生の物語はある一定の時間の中にあるから、人生という物語を導くのは不变の論理ではない。だから、誰も、「普遍的な倫理法則」から演繹する形で「責任を引き受ける」ことはできない。

戸谷のいう「物語的責任」は、だが、各自の恣意に委ねられてしまふ危険を帶びてはいないか?

物語は事後的な解釈によって成立し、訂正可能性も伴うからだ。それは、闇雲な「多様性」の称揚に繋がり、安易なレッセフェール(自由放任主義)に終わりはしないか?

その疑念に対し、戸谷は、「私」は自分の人生の作者になることはできない」と言う。物語の主人公であることは、物語を恣意的に動かすことではなく、むしろ、物語で生起するすべての出来事に関係づけられる覚悟を持つことなのである。

物語における最大の出来事は、「他者」である。だから、「他者」への気遣いこそ、自らを物語の主人公にする要諦である。かくして、責任の主体を問う「強い責任」ではなく、責任の対象を見逃さない「弱い責任」こそが、「物語的責任」を成立させるのである。

(フ)

# 本を焼く

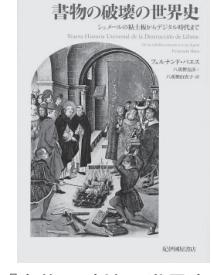
過剰になつた本は捨てなければならぬ。以前いた出版社で二〇代の数年間、そうした仕事を日々こなしていた。そのときの体験は自分の血となり骨となり肉となり滂沱の涙となつて、今でもその記憶に拘泥する。「自分に傷をおわせた相手を信じることができなくとも、自分の傷を信じることはできる」（鶴見俊輔から竹内好への弔辞）。それはいわば出版人としての原点だから、書物の破壊の瞬間を描いた文学などにはいやおうなしに関心が向く。

「本を焼く」というテーマで、本が失われてきた歴史に触れてみたいと思う。焚書、検閲、禁書、空爆、断裁……。書物はいとも簡単に消えていくのである。

## 1 書物の破壊の歴史

フェルナンド・バエス／八重樫克彦・

八重樫由貴子訳『書物の破壊の世界史――シユメールの粘土板からデジタル時代まで』（紀伊國屋書店・三八五〇円）をまず紹介したい。世界各地の書物破壊史をたどった唯一無二の名著である。たとえば抑圧者が書物を恐れるのは、それが「記憶の壘壕」であり、「記憶は公正さと



『書物の破壊の世界史』

民主主義を求める戦いの基本』だと認識しているからだという。ゆえに書物の破壊は「必ずといっていいほど、規制、排斥、検閲、略奪、破壊という暗澹たる段階を経る」。こうした迫害は現代社会を見渡してもほとんど変わっていないことに気づかされる。

ルスのなかの永遠——書物の歴史の物語』（作品社・五六八〇円）も欠かせない傑作。約三千年以上の書物の歴史を縦横無尽に行き来し、破壊にまつわるエピソードも数多く取り上げられる。バエスの本には「人間の無関心」が書物を破壊に至らしめたと書いてあり、一方でバジエホの本にも「何世紀ものあいだに、関心の欠如と忘却が、検閲や狂信よりももつと多くの書物を破壊した」とある。わたし

たちの無関心や沈黙が破壊を助長する。書物の運命に限った話ではないだろう。



## 2 各国で起ころる破壊

パレスチナの東エルサレムにある書店にイスラエル警察が踏み込み、一〇〇冊以上の本が押収され、店主が逮捕された（朝日新聞）二〇二五年二月二〇日付）。

言論弾圧から本の破壊、そして人間の殲滅へはほんの幾径庭もない。デルフィー・ミヌーイ／藤田真利子訳『戦場の希望の図書館』――瓦礫から取り出した本で図書館を作った人々』（創元ライブラリ・九九〇円）は、二〇一五年、シリアの首都近郊の町ダラヤで起こったアサド政府軍による破壊をつぶさに描いたノンフィクション。自由を求める若者たちが作った地下図書館にも容赦なく爆弾が落とされるが、空爆下でも本を読むのをやめ



『戦場の希望の図書館』

ないのは「何よりもまず人間であり続けるため」だという。パレスチナの詩人マームード・ダルウェイシユを読むことが最も大きな慰めだと語る青年アフマド。彼は詩の全文を暗唱できるほどに読み込む。「ひとつひとつの言葉、一行一行に僕がいる。書かれているその経験に僕を見る。砲弾の下で待っていること、時が広がっていくこと、忘ることのできない犠牲者たちのこと。僕はその詩を聞いて思うんです、僕が感じていることとまったく同じだって」。野蛮な現実を生き延びるために、人間を守る読書＝本が必要とされている。

日本で起こった本の焼失にも目を向けてみたい。岡崎武志『蔵書の苦しみ』（光文社知恵の森文庫・八一四円）の「蔵書が燃えた人々」の章では、永井荷風、中島河太郎、堀田善衛などの蔵書が、戦時の空襲により灰燼に帰したことが紹介されている。なかでも植草甚一は「焼けた本の山は眞白な灰の山でした。きれいでしたねえ」と感慨にふける。そして灰の中に足をつっこみ「軽いケーキ」の中のようだったと漏らすあたりが興味深い。蔵書家がしばしば用いたという「書物の疎開」なる言葉にも考えさせられる。

## 3 フィクションのなかの破壊

四方田大彦『書物の灰燼に抗して――比較文学論集』（工作舎・二八六〇円）では、空爆によって蔵書諸共燃え崩れたサラエヴォの図書館を前にして、「書く

訳『アルマンゾル』（法政大学出版局・二九七〇円）の中に出でてくるものだ。舞台はレコンキスタ終結後のスペイン、グラナダで、イスラム教徒の青年アルマンゾルと、キリスト教徒の恋人スレイマに生じた悲劇を描く。物語の文脈上、異端審問によつて焼かれた本は『コーラン』を指すが、これは史実とも重なる。一八二三年に出版された本作は、ナチスによる焚書とその後の大量虐殺を見越した警句として言及される機会も多い。ぜひ実際に作品を読んでみてほしい。



『アルマンゾル』

小説中に焚書が描かれた最初の事例は『ドン・キホーテ』だとされる。セルバンテス／野谷文昭編『ポケットマスター ピース13 セルバンテス』（集英社文庫・一四三〇円）で手軽に、その重要な情景を読むことができる。第一部第六～七章

で、ドン・キホーテの狂氣の原因が騎士道物語の読みすぎにあると判断した人びとは、窓から本を放り投げ山積みにして、火をつけて燃やしてしまう。さらにドン・キホーテが寝ているあいだに書斎の扉を壁で塗りこめて、その存在まで消してしまったのだ。

筒井康隆『墮地獄仏法／公共伏魔殿』

（竹書房文庫・一四三〇円）所収の表題『墮地獄仏法』は、宗教団体「総花学会」を支持母体とする「恍瞑党」が政権を掌握した全體主義社会を描く、ディストピア小説である。言論統制が敷かれたうえで、恍瞑党綱領にそぐわない本を対象とした焚書が毎日のように行われ、新聞には「東京地区の昨日の焚書」というコラムが掲載される。『聖書』、『古事記』、『日本書紀』、ダンテ『神曲』など、燃く本のジャンルは多岐にわたる。

一九〇二四年にノーベル文学賞を受賞した、ハン・ガン／井手俊作訳『少年が来る』（クオン・二七五〇円）は、一九八〇年五月に起きた光州事件を題材とする。第三章「七つのビンタ」は軍による弾圧から五年後の話で、当時高校生であつたキム・ソンオクは編集者となり、



『少年が来る』

ボフミル・フラバル／石川達夫訳『あまりにも騒がしい孤独』（松籟社・一七六〇円）は、社会主義体制下のチエコを舞台とする。故紙処理係のハニチャは、検閲により廃棄処分になつた本を断裁する仕事に就き、三五年間日々こなしている。「水庄プレスで美しい本を潰すとき[……]僕には人間の骨の碎ける音が聞こえたものだ」。そうした最終処分場で働きながら、時折見つかる「美しい本」を救い出しては、そこに書かれたことはを愛でて彼は生きてきたのだが……。

光州事件に関する戯曲集の出版を試みる。しかし検閲を受けた仮製本は無残なり姿で帰ってくる。「ページが燃えた、彼女は最初そのように感じた。燃えて黒い炭の塊になつた」。インクローラーでペジ全体が墨塗りにされるのである。

ジョゼ・エドワード・アグアルード  
／木下眞穂訳『忘却についての一般論』

（白水社・二八六〇円）の舞台はアンゴラ  
ラである。宗主国ポルトガルとの解放闘

争の末、一九七五年に独立を果たすが、

間をおかず内戦（冷戦による代理戦争）

に突入する。動乱のさなか、主人公の女

性ルドヴィカはマンションの部屋の入口

をセメントで固めて外部との接触を遮断

し、自給自足の生活を始める。日記を綴

り、紙が尽きれば部屋の壁中に詩を書き

つけ、そして暖を取るために大切にして

いた膨大な本を燃やす。「これだけは、

と焼かずにおいた数冊だ。この数年わた

しに寄り添つてくれた美しい声たちを、

わたしは焼いてしまった」。

エリアス・カネッティ／池内紀訳『眩

暈』（法政大学出版局・四九五〇円）が、

最初にイギリスで出版された際の英題は

『焚書』であった。本書は「書物は人間

よりも値打ちがある」と断言するほど書

物に取り憑かれた者の物語である。東洋

学者ペーター・キーンは群衆世界の渦に

巻き込まれて狂気に陥り、最終的に自ら

が藏する二万五千冊の本に火を放つて死

んでいくのだ。燃え上がる万巻の書物の出

イメージは、アレクサンドリア図書館の炎上や、始皇帝の焚書を呼び起こす。

斜線堂有紀『本の背骨が最後に残る』

（光文社・一八七〇円）は、「本を焼くのが最上の娛樂であるように、人を焼くことも至上の愉悦であつた」という一文で

始まる。物語を語る者が「本」と呼ばれる

國で、同じ物語を有する本たちに異同

が生じると、各々の正当性を訴え討論し、

敗れたほうは焚書となり業火に焼べられ

る。それを見るのがこの國の娛樂なのである。

ある。

版されても書店に並ぶこともなく破棄さ  
れているか（バエス）。「今日では、私

たちは書物の破棄を合理的に計画」し、

「出版社の倉庫は、最初の死、つまり書

店から返品された孤児のような書物を收

容する靈安室となつてゐる」（バジエホ）。

そうした悲惨に日々直面し、自らが身を

置く業界の構造に憎惡が募ることもある

が、「嫌んなつた」（憂歌団）と絶望して

も仕方ないから「だけどクサるのは止め

とこう」と腹をくくる。「お前が深く愛

するものは残る。残りは屑だ」（バゾリ

ニがパウンドの前で朗読した詩行）。失

われたものから眼を逸らさないこと。捨

てる快感に抗うこと。焼いた本から焼か

ない本を生むこと。墮ちる道を墮ちざる

ことによつて、古くて新しい出版を発見

し、救わなければならぬ。

（法政大学出版局・赤羽健）



『本の背骨が最後に残る』

＊愛書家の樂園・特集「本を焼く」で紹介

した書籍は、ジュンク堂書店池袋本店二階  
エレベータ前、三宮店五階、高松店レジ前、  
丸善京都本店地下二階と岐阜店入口、博

多店又芸書フェアコーナーにて、五月十  
日～六月九日までフェア展開中です。

#### 4 本を焼くわれわれ



# この人を見よ 2025

ずいぶん前のことですが二〇一〇年に  
ジュンク堂フェア大賞というものがありました。その時に私の「この人を見よ」  
フェアが大賞に選ばれました。そのフェアは私がこの人物を知つて欲しいという  
本を集めたフェアで、独創的先鋭的で万人受けはしないけど深く刺さる人には刺さる独特独自の表現をしている人物の本を選び、もつといろんな人に「こんな面白い人がいるんだ！」と知られて欲しいとの思いで開催しました。

十五年経った今、再度同じ基準で本を選び「この人を見よ2025」としてフェアを開催したいと思います。前回はジャンルレスで四十五冊選書しましたが、今回は音楽芸術欄から十五冊くらい選びます。二〇一〇年のフェア写真が残っていたので見てみましたが九割ほどの本が現在既に出版社品切れで入手不可能になっていました。このことからもわかるようにほとんどの本は全て限定品だと思つた方がいいです。出会つた時が、買う時です。

まずは、今年亡くなってしまったディヴィッド・リンチ。変な空間で変な奴に

絡まれたり意味不明な状況に置かれたら思わず「ディヴィッド・リンチの映画みたいや」と呟いてしまいそうになるほど世界観とスタイルを築いた映画監督、コンクリートブロックサイズの『夢みる部屋』(フィルム・アート社・四九五〇円)という自伝が出版されています。亡くなつた後「ワイルド・アット・ハート」を見直したら吐瀉物にたかつた小糞が一斉に飛ぶシーンがやけに美しかつた。「カルトの帝王」という異名があります。



『夢みる部屋』

お次は「帝王」繫がりで「ノイズの帝王」J·O·J·O広重のエッセイ集『また逢う日まで』(TANG DENG・二七五〇円)。ノイズとはノイズミュージックのことで、そういう音楽ジャンルがある。インキヤパシタンツというノイズバンドが音楽に詳しくない仕事仲間をライブに招待

して、ライブ終わりに感想を聞くと、「ずっとチューニングしてると思つたら終わつた」という話。ノイズというものがよくわかる好きなエピソードです。音楽というより音。JOJO広重の幼少期からの思い出、音楽、本、映画、易（占い）という章立てになつていて名前のJOJOの由来から音楽的ルーツなどなどをあけすけで誠実に書かれている。



『また逢う日まで』

前回二〇一〇年のフェアの時はリー・スクラッチ・ペリーの本を二冊選びました（どちらも現在は品切）。今回はその師匠キング・タビーの本を、タイトルはそのまま『キング・タビー・ダブの創始者、そしてレゲエの中心にいた男』（Pヴァイン・四一八〇円）。ボブ・マーリーはみなさん知つていると思いますが、もう一步レゲエの奥に踏み込んでみてはい

昨年末に『映像の発見』（筑摩書房）がちくま学芸文庫（一四三〇円）で再版された松本俊夫。松本俊夫といえば、実験映画、アヴァンギャルド、ドキュメンタリー。ずいぶん前に映写機を八台同時に映写する映画（タイトル失念）を観た。最後の方に映像が同期するようを作られていたのですが、八台の映写機を完全に

前回、画家ではヘンリー・ダーガーとニコ・ビロスマニを選びました。今回はエッシャーにします。ヘンリー・ダーガーやビロスマニと並べるような変人では無いけど、前にも後ろにも同じような画家がいないという点と西洋美術史の中でいい意味で浮いている。ここに紹介しているような人物たちに共通しているのは、作品が全く古くならないことです。こち



『キング・タビー』

かがでしようか。キング・タビーはダブの創始者で、ダブとはトラック音源にエンブリオンに施した音楽。リミックスのはしり。ヒップホップに必要不可欠なブレイクビーツを生み出したのもジャマイカ出身のクール・ハーフであることからも、現在の音楽シーンはジャマイカから始まつたといつてもいいすぎではないのかかもしれません。



『松本俊夫著作集成』

同時にスタートするのは難しく、少しづれていた。当時はズレとるやん！と思つたりしたけれど、今思えば贅沢な上映だつた。もう一度と觀られないかも。コアなファンには『松本俊夫著作集成』（森話社・①六六〇〇円、②五一八〇円）を。こちらは全四巻で、現在二巻まで出ている。真っ赤な装丁もアヴァンギャルドでカッコいい。

らも昨年末に『エッシャー完全解説』(みすず書房・近藤滋著・二九七〇円)といふ理系の著者による解説本がでました。大きい図版で見たい人には『エッシャー不思議のヒミツ』(求龍堂・三三一〇円、版元品切、在庫のみ)をどうぞ。



『エッシャー完全解説』



『ニジンスキー』



『グレン・グールド 著作集』



『国録石川九楊大全』

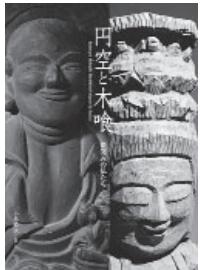
た。狂った後に精神病院に入院するまであるグレン・グールドの思想を知るには三十五年ぶりの新訳が出たばかりの『グレン・グールド著作集』(みすず書房・ティム・ペイジ編・七九二〇円)をオスメします。

続いては『ニジンスキー』(みすず書房・鈴木晶著・五七二〇円)、山岸涼子の『牧神の午後』(KADOKAWA・六四九円)という伝記漫画を読んだことからニジンスキーに興味を持ちました。「牧神の午後」はニジンスキーが振り付けた前衛的な舞台作品。

ニジンスキーと同じくらい少女漫画にピッタリなのは、ピアニストのグレン・グールドでしょう。当時の発表会は燕尾服を着て演奏するのが当たり前の時代。そこにセーターを着て猫背で鼻歌を歌いながら圧倒的なパフォーマンスをする超絶美少年。それに偏食。三十一歳で演奏

○円)。書道家石川九楊の作品を見ていたときだ。これは書道なのでしょうか。いや、書道というカテゴリーだからこそ面白い。現代アートなんて言わなければいいで欲しい、途端に冷める。超絶技巧のその先というような書道のネクストレベル。評論本もたくさん書かれているからもニュアンスではなくロジカルに書かれていることがわかる。大河ドラマ「ベルラボウ」の題字も担当している(普通の字も書けるんだ)。

会から引退を宣言。独創的なピアニストであるグレン・グールドの思想を知るには三十五年ぶりの新訳が出たばかりの『グレン・グールド著作集』(みすず書房・ティム・ペイジ編・七九二〇円)をオスメします。



『円空と木喰』

『円空と木喰』（東京美術・小島梯次監修／著二八六〇円）。今度は逆に技巧つて、テクニックって何？ そんなもんいる？ 彫りたいから彫る円空。彫った仏像は約十二万体。モノによつては小学生の夏休みの宿題みたい。以前奈良に行つた時にたまたま会つたお爺さんが「見てみコレ円空や」とボロボロの木像を見せてきた。なんて言つていいのかわからずまごついていると「昔子どもがおもちゃにして放り投げて遊んでん」と嬉しそうに話した。素敵やんと思った。

『ゆびさきのこい』（ケンエレブックス・

四一八〇円）。描きたいからと描きたいものを描き。撮りたいからと撮りたいも

んを撮る。そうやつて作られたものほど心が動く。偏執的な嗜好で写真を撮る人たちの写真を都築響一が編集した写真集。これを見ると表現つて自由でいいん

だと思えるし、思い出させてくれる。綺麗なモノである必要も無ければ反則技なんてそもそも無いのであって、誰かに言われたわけでも無いのに手枷足枷をつけてしまつてゐるのです。この写真集のタイトルにもなつてゐる「ゆびさきのこい」という写真たちは全ての写真に指が写り込んでゐる。いや指しか写つていないともいえる。レンズの前に指が入つても失敗ではなく作品になる。他にも女性のカーラマンが自分の太ももに男性の顔を挟んでおもしろフェイイスにした写真ばかり撮つたものやら、コピー機に自分の顔と様々なモノを挟んで印刷したカーラマンを持つてゐない写真家もいる。十三名のおそらくプロではない写真家たちの写真を都築響一が編集している。ちなみに都築響一は『POPEYE』『B.R.U.T.U.S』などで活躍してゐた編集者です。

その両誌のロゴデザインをしたのは堀内誠一。他にも『a·n·a·n』『o·l·i·v·e』のロゴデザインもしてて『ぐるんばのようちえん』『たろうのおでかけ』（どちらも福音館書店・一三二〇円）等の絵本作家としても有名で、瀧澤龍彦とともに雑誌『血と薔薇』の編集をしたり

もした。フランスに長年住んでいたのでフランスに関する本も多数出版している。おすすめしたい今年開催された展覧会の公式アートブックである『世界はこんなに』（ブルーシープ・二五三〇円）は装丁も美しい本。長女の堀内花子さんの『父堀内誠一が居る家 パリの日々』（カノア・二二〇〇円）も是非。



『世界はこんなに』

まだまだ紹介したい人物はたくさんいますがその人物に関する本が無ければ紹介できないし、あつてもいい本でないとオススメできない。紙面も尽きました。私自身書店で働きながら映画を撮り続けているなかで、この紹介してきた人物たちに刺激を受けて気持ちを昂らせてきました。みなさまもこの人を見て羽ばたいてください。

今月の  
社会科学  
おすす

「働くこと」大全

水町勇一郎著

本書は社会に出る前の不安を抱える若者にとつて必読の一冊だ。

「なぜ働くのか」という根源的な問いから、日本の労働環境、キャリア形成、知つておくべき労働法規まで、多岐にわたるテーマを解説する。

対話形式で書かれており、難解な内容も物語としてスムーズに理解できる。單なる知識の伝達に留まらず、「自分らしい働き方」を考えるヒントを与え、主体的なキャリア形成を促す著者の温かい姿勢が魅力的だ。

近年、労働市場はコロナ禍を機に急速に変貌を遂げている。転職も一般化してきた。昨今、新社会人だけでなく「働く」意味を改めて考えたい人に未来への一步を踏み出す勇気を与えてくれるだろう。

KADOKAWA

一九八〇円



る。それ故に自分の一挙手一投足にはもつと緊張感を持たないといけないのでないかと考えさせる。

日本経済新聞出版

一九八〇円

まさか私がクビですか？

なぜか裁判沙汰になった人たちの告白

日本経済新聞「揺れた天秤」取材班著

本書は日本経済新聞電子版にて二〇二三年七月より連載されていたものを書籍化したもの。ふとしたきっかけからトラブルに見舞われ、事件の当事者となり、裁判に至り、判決を受ける。その顛末について民事や刑事を問わず様々な事件を取り上げている。

冒頭では銀行の副支店長が洗剤の試供品を持ち帰ったという些細な理由で解雇され、自ら裁判を起こした事件を取り上げている。お金、恋愛、パワーハラ……家庭や会社での日常的にありふれた出来事がどんなでもない事件に発展し、裁判沙汰になってしまふことが、自分たちの想像以上に起こりやすいものだと教えてくれる。

本書は哲学の祖ソクラテスを師に、批判的思考と分析、質問の訓練を通して、



「良い質問」をするための技術を身につける実践哲学の書である。多忙な現代人にとって、実りある会話をするためのテクニックを得ることで、人生において有用な発見が得られるはずだ。

ダイヤモンド社

一九八〇円

### Breaking Twitter

イーロン・マスク 史上最悪の企業買収  
ベン・メズリック著

今、最も世界的影響力を持つ実業家イーロン・マスクによるツイッター買収を、買収された側の目線で描いた作品である。

マスク氏が個人の直感でツイッターを買収し、「X」へ変革するまでを、膨大な量の資料の読み込みや買収された社員・関係者への細かな取材で克明に描いている。マスク氏の狂気のような言動が起こす大混乱に、ページを繰る手が止まらない。

前代未聞の企業買収劇。ツイッターがSNSの世界に果たしてしてきた役割とは一体なんだつかを考えさせられる一冊である。

ダイヤモンド社

一九八〇円

## 小澤隆生 凡人の事業論

蜷谷 敏著

数多くの事業を立ち上げ、ヤフーの社長も務めた小澤隆生氏と、氏に関わった方々へのインタビューで、本書は構成されている。

小澤氏へのインタビューは具体的な事業の内容から、最後には人生論にまで及ぶ。そこで語られている氏が築き上げた

業績や哲学は、とても凡人のソレではない。だが本書では天才でなく、凡人であつたとしても、正しい方法論があれば成功できるという話が繰り返しされている。

実績を積み重ねた経営者の言葉と哲学は、起業や、新規事業に携わる方のみならず、どんなビジネスにも役立つこと請け合いだ。

ダイヤモンド社

二二一〇円

### 教養としての「不動産」大全

中城康彦著

教養としての  
不動産

不動産  
大全

建設、販売、都市開発、投資……  
経済、法律、工学、経営の複合化  
面白く、深く学べる! 中城 康彦

著者名による複数解説付の特典付  
著者名による複数解説付の特典付  
著者名による複数解説付の特典付  
著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

著者名による複数解説付の特典付

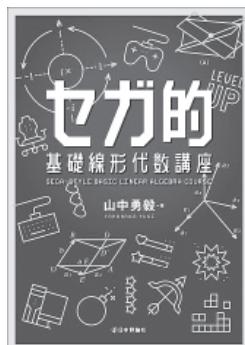
今月の  
コンピュータ  
おすすめ

セガ的基礎線形代数講座

かな文体も魅力的だ。馴染みあるゲームキャラクターの背後でどのような数理がはたらいているか、本書をきっかけにさらに深く学びたくなるはず。

日本評論社

二九七〇円



坦う。彼らに求められるのはデータ全般に関する知識と各部門とのコミュニケーションスキルだ。本書では、スピードと正確さが求められるビジネスの中で、異なる立場の意見をいかに集約、一本化するかが緻密な論理によって組み立てられており、確かな読み応えを感じられる。著者らの経験知が十分に活かされた渾身の一冊だ。

共立出版

二八六〇円

モードレスデザイン

上野 学著

数々のUIデザインに携わってきた著者の、集大成ともいえる一冊。前著『オブジェクト指向UIデザイン』(技術評論社・三二七八円)は実践寄りの内容だったが、本書はUI、さらにはデザインそのものへと向き合う際の精神的土台を築く要素について語っている。モードレスデザインとは文字通り、モードを極力減らしたデザインのこと。モード、すなわち使用状況に束縛された機能制限を取り去るほどにプロダクトは自由になり、使い手の創造性すら高める真の道具となる。

応用知識としての三次元回転の表現が、数式と証明を提示しつつコンパクトにまとめられている。語り口調を残した和や

理工系諸分野に幅広く用いられる計算手法であり、ゲーム開発や3Dグラフィックスの処理にも活用されている。マス

ターサーすれば多方面に応用が利く力を身に付けられるが、広範囲にわたる知識が学習のためには必要だ。複雑な数学の一種である線形代数の基礎を、本書は八本の章立て、シンプルな記述によって解説。ベクトルや行列など、土台となる要素や

長年ビジネスシーンにおいてデータ分析に携わり、問題解決に取り組んできた著者らによる書籍。組織でのデータ利活用の中心となる「データエンジニア」の重要性を論じる。データエンジニアは経営・オペレーション・情報システムなど、企業の各部門のいわば仲介役だ。データの収集や加工を通して三者の対話を円滑にし、データ利活用を促進させる役割を

# 今月の 自然科学

おすすめ

太田出版

三八五〇円

幻冬舎

一五四〇円

より状況が悪くなっているからなのだろうか。

寄せる相手との話のタネとしても参考になるだろう。

モテようとして○○しました。<sup>まるまる</sup>

動物たちの奇妙な求愛図鑑

こざきゆう文 今泉忠明監修

動物たちは本能に従い、繁殖するため日々様々なアクションを起こしている。本書には自然界で繰り広げられるオスたちによるメスたちへの、究極の求愛行動がまとめられている。

人間界では考えられない方法でアピールしまくる動物たち。その中にはクツツと笑つてしまえるのや、絶対ありえないと驚くものばかり。一番の見どころは、そんな動物たちの求愛行動を人間バージョンに置き換えたイラストが描かれているところだ。ポップなイラストで見てみると、動物たちの必死のアピールがとても可愛く思えてくる。また動物たちの恋模様も一筋縄ではない事がわかる。

なんだか既視感がある。環境問題や不況など未来に対して不安が強い時代に、そういった変化や進化の過程を踏まえて地質学者で古生物学者でもあるサイエンスライターが描いた未来の進化が本書である。今見るとSFチックで長閑さすら感じてしまうのは、かつて捉えていた事態を直視せず棚に上げていたせいで當時

20のテーマでよみとく  
日本建築史  
古代寺院から現代のトイレまで

海野 聰編

本書は、「建築史の面白さ、幅広さ、懐の深さを知つてもらおう」という短いコラムを集めた一冊で、執筆者は、編者を含めた十人がみな東京大学建築士研究室の修士・博士課程の大学院生やO.B.OGである。それぞれの執筆者の興味ある研究分野をわかりやすく伝える、というコンセプト通り、小難しく聞こえる「建築史」を読んでいるという感覚はなく、「大学」の「研究室」で執筆されたものとも思えない。有り体に言えば、執筆とテーマからは想像できないほど読みやすく、「建築」の魅力が伝わるコラム集なのだ。あるにも関わらず、本書は最前端の「研究」でもある。法隆寺五重塔や遊郭、見世物小屋、廁や旅籠など、多様なテーマで読むものを飽きさせない一冊。

吉川弘文館

一二四二〇円

今月の  
おすす

## 医 学 書

### 医師1年目になる君たちへ

山本健人著 初期研修医としてはじめ

ての救急外来で、あまりにも無力だった自分を今でも思い出すと著者は語る。周りの先輩医師や看護師の仕事ぶりと比べて、自分はこんなにも使いものにならないのかと苦悩したそうだ。国家試験のために医学生のころどれだけ真面目に勉強していくても、医療現場で必要とされる知識との間には乖離がある。多くの「初見」があふれる臨床現場に、眞面目な医師たちは悩まされてきた。

本書は、そんな初期研修医本来のスタートラインよりも前進した位置から、スマーズに走り始めるためのものである。初期研修に必要な入門知識がつまつていて、本書を読めば仕事がすいぶん楽になるような、壁にぶつかれば支えになってくれるような一冊。また、医療知識だけでなく、マネーリテラシーやキャリアについても、心強い支えとなってくれる。専門性が高くなるにつれ、それ

れることだろう。研修医一年目を迎える読者へ、そして昔一人で思い悩んでいた当時の著者自身に向かた、先輩からの指南書。

一年後、きっと読んでおいて良かったと感じる一冊である。

羊土社

三五二〇円



### 精神科医と診る精神疾患ミニック 内科医と診る器質性精神病

石田琢人著

現代医学の進歩により、

専門家の存在は以前よりも大きくなっている。専門性の高い医師が増えることで、特定の疾患を持つ患者さんに対応してより高度な医療を提供できるようになつた。しかしその一方で、複数疾患を持つ患者さんにとつては必ずしも良いこととは限らない。専門性が高くなるにつれ、それ



中外医学社

三〇八〇円

その守備範囲は明確になり、専門領域間の隙間は広がっていく。内科領域において、この隙間を埋めるのが総合内科医だが、それでもなお大きいのが“精神科と内科の隙間”である。

本書は、精神科と内科の隙間にある“器質性精神病”について、精神科と内科の両方の視点から解説する。症例と関連づけて疾患の概論やポイント、経過から見える問題点を挙げるなど、臨場感たっぷりな構成だ。また、医師同士のコミュニケーションエラーや認知バイアスなど、疾患知識以外もカバーされている。精神科と内科の隙間に数多の“落とし穴”が存在する。本書は、そんな落とし穴の発生原因や落ちないための工夫がつまつた、臨床現場の地図となる一冊である。

羊土社

三五二〇円

今月の

人文学  
科学  
おすすめ

奴隸・骨・ブロンズ

井野瀬久美惠著

かつて植民地として支配されていた場所も、時代、世代の移り変わりの中でその記憶や知識は人々の中で内面化していく。違和感を持つことがなくなつてい

く。その状況から抜け出すことを著者は

「知の脱植民地化」と呼ぶ。そしてそれが起ころるきっかけとして過去の記憶が想起される出来事に注目する。タイトルは

そのキーワードである。なぜ今、唐突に

「その記憶」が思い出されたのか。そうやって想起された過去は、今の私に、私たちに、何を伝えようとしているのか。

世界思想社

二九七〇円

エクソシストは語る

田中 昇著

エクソシストと聞くと、リンダ・ブレア主演の映画「エクソシスト」などのホラー作品やサブカルチャーを思い浮かべ

る方も少なくないだろう。だが悪魔祓いは現在も、カトリック教会における伝統的かつ重要な儀式に位置づけられている。

本書の著者はローマ教皇庁立大学で正式にエクソシズムを修め、エクソシストとして任命され、実際に儀式を執り行った経歴を持つ。悪魔憑きの識別や悪魔祓いの歴史、手順などを交えて語られる彼の報告は、宗教の枠組みを超えた深い洞察に満ちたものである。

集英社

インターナショナル 二五三〇円

アルトナの幽閉者

ジャン＝ポール・サルトル著

サルトル戯曲の重要作が刊行された。

「実存」のサルトルは旧びてしまつたが、演劇人としてのサルトルは今の時代、注目に値するのではないだろうか。まさに本書はそれにうつづけの一冊。

閏月社

三九六〇円

子どもの心理発達の臨床

横山浩之著

神経発達症（発達障害）ではなく、環境要因によって不登校や不適応、愛着障

害、マルトリートメントなど病的な心理

発達過程にある子どもへの対処法について解説していく一冊。Piaget の心理発達理論といった基礎知識から、各発達段階における課題や具体例を交えた対処法などを幅広く扱い、あらゆる臨床知見と豊富な学識で丁寧に読み解いていく。

本書が保護者や医療従事者、心理学を学ぶ学生など、子どものケアに関わるすべての人、そしてその先の子どもたちへと繋がることを願う。

診断と治療社

四一八〇円

BE THE PLAYER

島谷十春著 石川県加賀市が地方創生

の大きな柱に掲げた教育改革。二〇二二年文部科学省職員から加賀市教育長に就任し「公立全小・中学校の教育を抜本的に変える」ことを任せられたのが、著者の鳥谷氏。わかりやすく具体的なビジョン

デザインのものと、すべての関係者が当事者（PLAYER）性を持てるようにと旗を振り続け、わずか二年半で子どもたちの学びが変わっていき、全国からの視察が来るまでとなつたそのドキュメント。

教育開発研究所

二五三〇円

今月の  
おすす

## 文学・文芸

### 毎日読みます

ファン・ボルム著

牧野美加訳

世の中にはたくさんの本がある。それらを全部読むことはできないけど、本が好きな人なら可能な限り、より多くの本を読みたいと思うのではないだろうか。

そんな欲望に応えてくれるのは、昨年の

本屋大賞翻訳小説部門第一位受賞作『よ

うこそ、ヒュナム洞書店へ』(集英社・二六四〇円)の著者ファン・ボルムさん

の新刊だ。

多忙な中「毎日読み、書く人間」としてのアイデンティティーを保つ彼女の実践した方法が詰まつていて、毎日ヘトヘトだけどそれでも本が読みたい人へのヒントになるはずだ。

読んでいるうちにまるで『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』(集英社新書・三宅香帆著・一一〇〇円)へのアンサーソングならぬアンサープックのよ

うだなと思っていたら、帯に著者の三宅香帆さんのコメントを見つけて、やっぱり!と思わずひとりごちた。

読書後に劇的な変化が起きるわけではない。それでも私達は時間をかけて本を読む。

まだ読んだことのない本がたくさんあるということは、まだ出会っていない知らない世界があることだという希望のようにも思える一冊。

集英社

一九八〇円

### ありか

瀬尾まいこ著

家族小説の名手・瀬尾まいこさんが描く、特別ではないけれどかけがえのない、

たつたひとつ家族の物語。シングルマ

ザーとして、五歳になる一人娘の「ひかり」を育てる主人公と、ひかり、そしていつの間にか家族のような存在になつていた別れた夫の弟、この三人を中心に物語は進む。

自身もまたシン글ルマザーに育てられ、毒親と言われるような扱いを受け続け、母親との関係にいまだ苦しむ主人公。けれど絶対的に自分を肯定してくれる存

在であるひかりの、母親が人生の全てであるかのような無垢な子どもの愛情が、少しづつ彼女を変えてゆく。

親子でゆっくりと成長していく時間を見守りながら、ページをめくる幸福感。

そして親子を取り巻く人々の優しさがあたたかな光のように物語を満たしていく。

血のつながりは大切なものであるのと同時に、時としてそれは呪いにもなる。

そしてまつたくの赤の他人が、誰よりも大切な家族ともなる。家族のかたちはひとつではない。心の中に抱えた苦しみに寄り添ってくれる瀬尾まいこさんの小説はいつも優しい。

水鈴社

一九八〇円



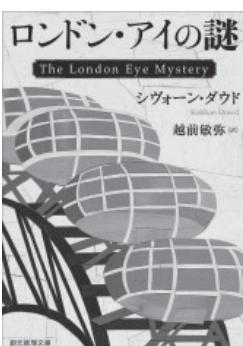
# 今月の おすす め

## 文庫・新書

シンプルな謎ときかもしれないが、それだけでは終わらない、誰にでも勧めたい物語である。

### 創元推理文庫

一一〇〇円



ロンドン・アイの謎  
シヴォーン・ダウド著 ロンドン名物の観覧車、ロンドン・アイに一人乗り込んだサリムは、一周して降りてきた観覧車のカプセルには乗つていなかつた。

いわば密室である観覧車から、サリムはどこへ消えたのか。いつしょに出かけていたサリムのいと十二歳の少年テッドは、姉のカットと共に謎に挑む。

テッドは「ほかの人とはちがう」頭脳を持つていて、大人たちの考え方がないことに気づくことができる。そしてその明晰な頭脳と物の言いかたで、周りの人ときくしゃくしたりもする。ちょっとイギリスのドラマ「SHERLOCK」のシャーロックや、フランスのドラマ「アストリック」とラファエル」のアストリックを思い出す描写である。

ヤングアダルト世代を対象にしたミステリーであるが、もちろん大人が読んでも十分に楽しめる。

れているまさに競演アンソロジー。どれだけでは終わらない、誰にでも勧めたい物語である。

登場するだけではなにやら意味ありげに思えてしまう併まいがある黒猫。イメージは人それぞれにあると思うが、この作品集ではプラスマイナスどちらの印象もひつくるめてあらゆる黒猫の魅力も楽しめる。

もともと謎を楽しみたいという読者層に向けての企画から本になつた作品集なのでミステリー色が強めだが、謎解きや恐怖だけでなく、ちょっと心がほころんでしまうような作品まで味わえる。

いま読み終えたはずなのに、またしても「黒猫を飼い始めた」の一文に出会ってしまうというなかなかない読書体験ができる一冊。

### 講談社文庫

七二六円



黒猫を飼い始めた  
講談社MWC編集部編  
二十六人の作家が「黒猫を飼い始めた。」という同じ書き出しで始める、二十六のショートショート集。潮谷駿、紙城境介、結城真一郎、斜線堂有紀、辻真先……会員制読書俱楽部で配信された豪華な執筆陣による短編は色とりどり。

書き出しの一文は同じなのに二行目からはまったく違う世界が広がる。冒頭の一文は同じというルールとショートショートの短くも読ませる満足感への挑戦が効いていて、作家の持ち味が凝縮さ

今月の  
おすす

芸  
術

異端の奇才 ビアズリー

河村錠一郎／学術監修  
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館・  
三菱一号館美術館・朝日新聞社／企画

本書は巡回中の「異端の奇才 ビアズリー」展の公式図録を兼ねた書籍として刊行された。画家、挿絵画家として十九世紀末のイギリスで活躍したオーブリー・ビアズリーはオスカール・ワイルド著『サロメ』の挿絵で一躍脚光を浴びる。持病の肺結核によって弱冠二十五歳で夭逝するまでの画業をまとめた決定版とも言える一冊。

常に死がつきまと中、日中でも分厚いカーテンを閉めて蠟燭の灯りの下生み出された白と黒が織りなす作品の数々。大胆かつ繊細。滲み出る生と死、光と影。まさに不安と希望がないまぜの世紀末という時代を表現した画家だと感じる。原田マハさん著『サロメ』（文春文庫）ではビアズリーの妹であるメイベルとワイ

ルドのパートナー、アルフレッド・ダグラスを含めた四人の愛憎関係が描かれているが、ビアズリーが描いたワイルドの絵からは結構な悪意を感じる。

青幻舎 三五〇〇円

司馬江漢と亞欧堂田善  
かつこいい油絵

府中市美術館／編・著

芸大の先生に教わる仏像の歴史  
磯波恵昭／著  
真船きょうこ／イラスト

仏像の入門書はたくさん出版されていて、名称だとか形式だとかはそれこそ同じだから、どれを選べば良いかわからないうんて困っている方もあるのではないだろうか。

本書は芸大の先生こと、京都市立芸術大学教授である磯波恵昭さんが、鑑賞としての仏像だけでなく、「仏さま」として多くの人々の信仰の対象となつた、社会背景などもわかりやすく説明していく、一味違う仏像の本。イラストは先生の授業を学生時代受講されていた、真船きょうこさん。各ページの親しみやすいイラストの他に、写真かと見間違う仏像のイラストは必見だ。

お二人の渾身の合作、ともいえる本書をぜひ手にとつていただきたい。

淡交社

一一九〇円

東京美術

一一一〇〇円

今月の  
おすすめ  
実地図・旅行書

天国ゆきのラブレター

坂本雄次著

著者の坂本氏は湘南国際マラソンの主催企業株ランナーズ・ウェルネスの創業者であり、また24時間テレビで有名となつたウルトラマラソンの立案者であり、トレーナーとしてマラソンの普及に多大なる功績を残した人物である。

マラソン関係の著作は数多くある坂本氏だが、本書は妻との生活を記した初のプライベートなものである。出会いはが中学三年生のとき。京都へ修学旅行に行つた時に乗車した観光バスのガイドさんが後に妻となる節子さんでこの時氏が十五歳、妻が二十歳。氏の「目惚れ」だったそうだ。文通から始まつた付き合いは幾多の困難を乗り越えて結婚。出会いから六十余年、恋人として、夫婦として純愛を貫き、二人三脚でマラソン企画会社を興すまでとなつた奇跡のような実話である。その証人とも言うべき三三七通に

も及ぶ赤裸々な手紙の文面には幾度となく胸を熱くさせられた。そこには相手を喜ばせるには何が一番大切なことか。人としての根源的な有様が楚々とした文章で綴られていて、読んでいるこちらの気持ちは洗われるようだつた。

巻頭に氏が修学旅行で初めてガイド時代の妻を写した写真が掲載されているが、この一枚からも氏の妻への奥深い愛情を感じ取ることが出来た。

主婦の友社

一七六〇円

捨てないレシピ

皮も種も、無駄なく使つてもう1品

小嶋絵美著

鳥居志帆イラスト

何年も前から頭の片隅に、たまねぎの

茶色い皮

には体に何かしらの良い成分があるらしいから煮出すと良いらしいとい

うほんやりした情報があり、またえのきの石づきはどこまでぎりぎりに切るべきなのかという考えが、毎回切る段になるとよぎります。食材を無駄にしたくない

という気持ちと、捨てるべきか捨てるべきか正解が分からぬ不安と、難しい

まつて、中途半端な情報だけが記憶の中になどんどん溜まっています。そこへ発刊された本書が疑問を解決してくれることになりました。

目次は野菜

果物、肉・魚介、その他

に分かれています。そして身近な調味料を使用したレシピになつてゐるのがうれしいところです。

鶏皮で作る鶏油、たまねぎパウダー、大根葉の浅漬け、ハンプキンシード、にんじん葉のジェノベーゼ、まるごとえの

きのなめたけ、セロリとたこのペペロン炒め等々すぐに作りたくなる魅力的なレシピがたくさんあります。そしてそれは食材を無駄なく使い、栄養価をアップするレシピなのです。

著者は管理栄養士で、食材の栄養価等の解説、レシピの解説、材料、作り方、ポイントがまとめられ、イラストの配置とバランスも絶妙で読者を楽しませてくれます。そのため、そもそも捨てる捨てない問題そつちのけで、美味しそう！簡単に作れそう！この野菜買つたら作ろうと、すっかりひきこまれてしまつます。

# 今月の おすす

## 語学・辞典

マンガで世界一わかりやすい

### 英文法の授業

関 正生／原作 春原弥生／マンガ

本書は二〇〇八年に発売されたベストセラー『世界一わかりやすい英文法の授業』(KADOKAWA・一六五〇円)の内容を初めてマンガ化した書籍。マンガ

になつたことで、参考書の解説だけでは分かりづらい部分も具体的なイメージが浮かびやすく、さらに分かりやすくなつた。英語が楽しかった学生時代を思い出したり、新たな英語の一面を垣間見たりできるストーリーに仕上がつている。

例えは名詞の章は、数える名詞と数え

ない名詞の見分け方。冠詞の章では、aとtheの使い分けなど、最初に英語が苦手になる部分を噛み砕いて説明している。英語が苦手な方だけでなく、元々英語が好きな方にもぜひ読んで欲しい一冊。

KADOKAWA

一五四〇円



すいサイズなので旅行のお供にもオススメの一冊。

Jリサーチ出版

一三三一〇円

いちばんやさしい

### 使えるインドネシア語入門

フェリックス・ワイジャヤ著

インドネシア語の入門書で、初学者にとって最もやさしい一冊である。

例文はすべて訳と読み仮名が付いており、解説文も平易である。レイアウトも見やすく、初心者でも文章の組み立て方が分かりやすい。

また音声はダウンロード形式で、聞き取り練習用の「ゆっくり」と、発音練習に最適な「超ゆっくり」の二パターンを収録している。

その中でも収録フレーズは基本的なないさつから旅行先で役立つもの、コミュニケーションを良好にするためのものまで幅広く収録。初めてインドネシア語を学ぶ方に寄り添つた内容となつていて。

外国语を新しく学び始める学習者にとって、一歩目で躊躇ことのないよう、という心遣いを感じさせる一冊。

台湾華語を使って、現地の人たちとコミュニケーションをとるのにチャレンジしてみてはどうだろうか。持ち運びしや

池田書店

二六四〇円

今月の  
おすす  
め児童書

妖鳥魔獸物語

廣嶋玲子作 まくらぐらま絵

人の秘密をささやいてくれる鳥、色鮮やかな美しい羽を持つクジヤク、きらびやかな鱗の蛇、そして犬や猫。世界各地に存在するさまざまな動物たちとそんな動物たちに惑わされ嫉妬や欲、憎悪にまみれていく人間たち。国も時代もさまざまですが、邪な欲望を抱いた者たちの運命は自業自得な結果や、やるせない結末になってしまふものばかり。どの時代でも本当に恐ろしいのは人間なのかもしれません。

一度読み始めれば、あなたもこの不気味で妖しくも美しい物語に夢中になつてしき込まれることでしょう。まくらぐらさんの美麗なカラーイラストも相まつて、その世界觀によりいつそう魅了されます。



自分が鮮やかに表現されています。  
さあ 三編の味わい深くてくせになる  
絵童話をご堪能ください。  
ほるぷ出版 一五四〇円

おかあさん、  
いいことおしえてあげる

シャーロット・ゾロトウ文 ジュリー・

モースタツド絵 福本友美子訳

女の子はお母さんに語りかけます。「ねえ、おかあさん」「わたしがおとなになつたらね」「うまをつかまえて（中略）おかあさんをのせてあける」「いちばんきれいなピンクのバラをあげる」。ふたりは寄りかかり合いませんが、愛情と信頼で結ばれていると伝わります。子どもは成長していき、そして巣立ちます。「それから、おかあさんがさびしくないようにもとだちを おいていく。わたし、ひろいせかいを みにいくからね。」

六十年間アメリカで読みつがれてきたゾロトウの名作に、新たな解釈で絵をつけた作品。もともとは兄から妹に語りかかる内容でしたが、母と子の物語としてモダンに生まれ変わりました。

# ATION

<p><b>丸善</b> = ヒルズウォーク億重店 = ☎(052)846-2610 [営業時間] 10時～21時半</p> <p><b>丸善</b> = イオンタウン千種店 = ☎(052)715-7911 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>丸善</b> = 豊田 T-FACE 店 = ☎(0565)41-3282 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 名古屋栄店 = ☎(052)212-5360 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 名古屋店 = ☎(052)589-6321 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>丸善</b> = 岐阜店 = ☎(058)297-7008 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>丸善</b> = 四日市店 = ☎(059)359-2340 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 滋賀草津店 = ☎(077)569-5553 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>丸善</b> = 京都本店 = ☎(075)253-1599 [営業時間] 11時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 松坂屋高槻店 = ☎(072)686-5300 [営業時間] 10時～20時</p>	<p><b>丸善</b> = 高島屋堺店 = ☎(072)225-0930 [営業時間] 10時～19時半</p> <p><b>丸善</b> = セブンパーク天美店 = ☎(072)339-7330 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店</b> = 梅田店 = ☎(06)6292-7383 [営業時間] 10時～22時</p> <p><b>丸善</b> = 八尾アリオ店 = ☎(072)990-0291 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>丸善</b> = 高島屋大阪店 = ☎(06)6630-6465 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 大阪本店 = ☎(06)4799-1090 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 難波店 = ☎(06)4396-4771 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 天満橋店 = ☎(06)6920-3730 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 上本町店 = ☎(06)6771-1005 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 近鉄あべのハルカス店 = ☎(06)6626-2151 [営業時間] 10時～20時</p>	<p><b>ジュンク堂書店</b> = 檜原店 = ☎(0744)29-0781 [営業時間] 10時～18時半</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 奈良店 = ☎(0742)36-0801 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 西宮店 = ☎(0798)68-6300 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 芦屋店 = ☎(0797)31-7440 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 神戸住吉店 = ☎(078)854-5551 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 三宮駅前店 = ☎(078)252-0777 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 三宮店 = ☎(078)392-1001 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 舞子店 = ☎(078)787-1250 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 明石店 = ☎(078)918-6670 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 姫路店 = ☎(079)221-8280 [営業時間] 10時～20時</p>	<p><b>丸善</b> = 岡山シナフォニービル店 = ☎(086)233-4640 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>丸善</b> = さんすて岡山店 = ☎(086)230-3001 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>丸善</b> = 広島店 = ☎(082)504-6210 [営業時間] 10時～21時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 広島駅前店 = ☎(082)568-3000 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 高松店 = ☎(087)832-0170 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 松山店 = ☎(089)915-0075 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>丸善</b> = リバーウォーク北九州店 = ☎(093)953-6790 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>丸善</b> = 博多店 = ☎(092)413-5401 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 福岡店 = ☎(092)738-3322 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 鹿児島店 = ☎(099)216-8838 [営業時間] 10時～20時</p> <p><b>ジュンク堂書店</b> = 那霸店 = ☎(098)860-7175 [営業時間] 10時～21時</p>
---	--	--	---

# INFORM

MARUZEN & ジュンク堂書店 = 札幌店 = ☎(011)223-1911 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = スマーク伊勢崎店 = ☎(0270)75-4590 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = 日本橋店 = ☎(03)6214-2001 [営業時間] 9時半~ 20時半	ジュンク堂書店 = 立川高島屋店 = ☎(042)512-9910 [営業時間] 10時~ 21時
ジュンク堂書店 = 旭川店 = ☎(0166)26-1120 [営業時間] 10時~ 19時半	丸善 = 丸広百貨店飯能店 = ☎(042)973-1111 [営業時間] 10時~ 19時	丸善 = お茶の水店 = ☎(03)3295-5581 [営業時間] 月~土 10時~ 20時半 日 10時~ 20時	丸善 = 横浜みなとみらい店 = ☎(045)323-9660 [営業時間] 11時~ 20時
ジュンク堂書店 = 盛岡店 = ☎(019)601-6161 [営業時間] 10時~ 21時	ジュンク堂書店 = 大宮高島屋店 = ☎(048)640-3111 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = 多摩センター店 = ☎(042)355-3220 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = ラゾーナ川崎店 = ☎(044)520-1869 [営業時間] 10時~ 22時
ジュンク堂書店 = 秋田店 = ☎(018)884-1370 [営業時間] 10時~ 20時	ジュンク堂書店 = エミテラス所沢店 = ☎(04)2969-0603 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = 有明ガーデン店 = ☎(03)5962-4180 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = 日吉東急アベニュー店 = ☎(045)594-8960 [営業時間] 10時~ 21時
丸善 = 仙台エル店 = ☎(022)264-0151 [営業時間] 10時~ 21時 日・祝 10時~ 20時	丸善 = 桶川店 = ☎(048)789-0011 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = 有明ワンザ店 = ☎(03)5530-5701 [営業時間] 10時~ 19時半	ジュンク堂書店 = 藤沢店 = ☎(0466)52-1211 [営業時間] 10時~ 21時
ジュンク堂書店 = 新潟店 = ☎(025)374-4411 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = 津田沼店 = ☎(047)470-8311 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = メトロ・エム後楽園店 = ☎(03)5684-5130 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = 松本店 = ☎(0263)31-8171 [営業時間] 10時~ 20時
ジュンク堂書店 = 郡山店 = ☎(024)927-0440 [営業時間] 10時~ 19時	丸善 = 舞浜イクスピアリ店 = ☎(047)305-5808 [営業時間] 11時~ 21時 土・日・祝 10時~ 21時	ジュンク堂書店 = 池袋本店 = ☎(03)5956-6111 [営業時間] 10時~ 22時	MARUZEN & ジュンク堂書店 = 新静岡店 = ☎(054)275-2777 [営業時間] 10時~ 21時
丸善 = 水戸京成店 = ☎(029)302-5071 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = ユニモちはら台店 = ☎(0436)26-7620 [営業時間] 10時~ 21時	ジュンク堂書店 = プレスセンター店 = ☎(03)3502-2600 [営業時間] 11時~ 20時	丸善 = 名古屋本店 = ☎(052)238-0320 [営業時間] 10時~ 21時
丸善 = 日立店 = ☎(0294)32-7401 [営業時間] 10時~ 20時	ジュンク堂書店 = 南船橋店 = ☎(047)401-0330 [営業時間] 10時~ 21時	ジュンク堂書店 = 大泉学園店 = ☎(03)5947-3955 [営業時間] 10時~ 22時	丸善 = アピタ知立店 = ☎(0566)91-7170 [営業時間] 月~土 10時~ 21時 日 9時~ 21時
丸善 = ジョイホンパーク吉岡店 = ☎(0279)26-9534 [営業時間] 9時~ 20時	丸善 = 丸の内本店 = ☎(03)5288-8881 [営業時間] 9時~ 21時	ジュンク堂書店 = 吉祥寺店 = ☎(0422)28-5333 [営業時間] 10時~ 21時	丸善 = アスナル金山店 = ☎(052)211-9788 [営業時間] 10時~ 22時

営業時間は変更する場合がございます。  
定休日については、お手数をおかけしますが弊社HPまたは直接各店までお問い合わせ下さい。

投稿募集

☆読者の皆様の投稿を募集しています。最近読まれた本の感想文、本にまつわるエッセイ、など本に関するもの。最近読んでおもしろかった本、感動した本、考えさせられた本を教えて下さい。

四〇〇字～六〇〇字程度で、おすすめの本のタイトル、出版社、住所、氏名

（ベンネーム可）、年齢、職業を明記の上、お送り下さい。

掲載分には二千円の図書カードを差し上げます。なお、原稿はお返しいたしませんのでご了承下さい。

☆尚、本誌掲載と同時に、ホームページにも掲載させていただきます。

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二一五—五

丸善ジュンク堂書店「書標」編集室係

TEL 〇三一五九五六一六一一

いつも「書標」をこ愛読いただきましてありがとうございます。  
ございます。本誌定期購読料は以下の通りです。  
定期購読料 年間一六八〇円（送料込）  
現金書留もしくは一四〇円切手十二枚で

お申し込み先

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二一五—五

ジュンク堂書店池袋本店「書標」定期購読お申し込み係

FAX 〒171-0022 東京都豊島区南池袋二一五—五  
TEL 〇三一五九五六一六一一  
FAX 〇三一五九五六一六一一〇〇

編集後記

四月号特集「読書で味わう学校生活」に誤字があります。

した。

『落第忍者乱太郎』文中の「一生懸命」について、担当者執筆時「一所懸命」であったところ、掲載の際「一生懸命」と変更したのは編集の誤りでした。お詫びして訂正します。

(緒)





本を売る

ね、ところで本っていつたいどこで売っているものなんですか」と聞いたとか聞かなかつたとか。恐れ慄くばかりである。

とはいって、最近ではそんな書店・出版

業界の現状を改善すべく、経済産業省が支援の手を差し伸べてくれるのでマ

スコミなどで業界のことが取り上げられることも増えた。特に個性的な独立系書

店などにはたくさんの注目が集まっている。私はといえば、チエーン書店である

我々にもできることがあるだろうと、最

近はトーケイベン特など本に関わるイベ

ントには出る方でも聞く方でもなるべく

外に出て関わっていくよう心がけてい

る。そこで顔を出して、お客様に店や会

社のことを知つてもらつて、あの人人がい

るから買いに行こうと思つてもらうのが

目標だ。それが正解かもわからないし、

遠い遠い目標でもあるのだが。

先日は六甲アイランドで行われた

KOBE BOOK FAIR AND MARKETと

いうイベントに出店した。出店に際し、おしゃれな本屋さんに閉まれて恥をさらすのではないかという不安を吐露したS

NSの発信をしたところ、来店されたお

客様が見てくださつており奥ゆかしいと

共感をいただいたり、お隣の書店主さん

と一緒に「ナウシカ」を今からまつさら

な状態で読めるなんてこの幸せ者!と未

読のお客様に対して二馬力の接客をした

り、選書した本の中でも特におすすめの

本として持つていったものを直接勧めて

買ってもらえたり。直にお客様と近い距

離でコミュニケーションを取ることで、

あらためて、本を売ることの喜び・楽し

さを感じられるとても良い経験となつ

た。また店にも行きますねと声をかけて

いただけて本当に嬉しく思つた。

「飛ぶように」とはいかないかもしれない。

「飛ぶように」とはいかないかもしれない。けれど、まだまだ本は読まれるし、

書店にもやれることはあるなという思い

を強くした。

丸善ジユンク堂書店は大阪万博会場内にオフィシャルストアを構えている。開幕すぐの大盛況の店舗の応援に何度も行った。大混雑の店内。グッズやお菓子などが並べるそばから飛びように売れていくのを目撃したりしながら、先輩から聞かされた、今となつては昔のことだが本にもそのような時代があったという遠い言い伝えを思い出していた。

今はなかなか昔のようにはお客様に本屋に足を運んでもらえていないという実感がある。それどころか若い人の中には、本屋に来たことがない人もいるという怪談を聞いたこともある。本を紹介するyoutuberに対し「とても面白そうです

「書標ほんのしるべ」 第557号

一〇二五年五月五日発行 領価五十円（本体四十六円）

編集・発行人 西川仁  
発行所 (株)丸善ジユンク堂書店  
印刷所 旺社

〒653-1043  
0012 0033

東京都中央区新川一の二十八の二十三 東京ダイヤビルディング五号館九階

（ほ）

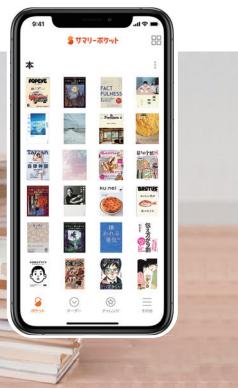
「書標  
ほんのしるべ」  
昭和61年7月15日第三種郵便物認可  
毎月1回5日発行  
通巻第557号

# MARUZEN JUNKUDO × サマリー・ポケット

預けた本は一覧で管理。タイトルや作者もデータ登録!

文庫本なら1箱に130冊入ります!

サイズ：幅44cm × 奥行33cm × 高さ24cm



## 丸善ジュンク堂書店のお客様限定プラン

3箱保管プラン	通常月額 1,485円	最大30%おトク → 990円
5箱保管プラン	通常月額 2,475円	最大35%おトク → 1,540円

詳細はこちらから



<https://spkt.jp/maruzen>

※ バーコードを読み込んで画像やタイトルをデータ登録します。バーコードがないものや読み取ることができないものは、適宜個別に撮影します。

※ 価格は全て税込表示です。

※ 本プランの対象となるのは、「サマリー・ポケット」に新規登録される方に限ります。

※ 本プランはサービス利用開始後24ヶ月間有効です。(翌月以降は通常料金となります。)

## ご利用方法は簡単4ステップ



専用サイトで申し込み



届いたボックスに  
本を詰めて送るだけ



預けたものは  
PC・スマートで管理



使いたい時、最短翌日に  
取り出せる

本の保管場所に悩む、すべての方へ

ジュンク堂書店  
淳久堂書店

M MARUZEN